

## 繭・米の「生産費」調査統計にみる女性労働の反映

○伊東瑞恵\* 粕谷美砂子\* 伊藤セツ\*\*

(\*昭和女大・院、 \*\*昭和女大)

目的：養蚕と女性が密接な関連にあることを示す習俗は、各種紹介されている。では、実際に女性がどのようなに養蚕労働に携わっているのか。またそれはどう評価されているのかを、米作における女性農業労働との対比で検討する。

方法：農水省統計情報部の「繭生産費」と「米及び麦類の生産費」調査（1970年～1995年）中の労働時間部分を用いる。主に繭生産費を問題とするが、養蚕農家は同時に米作農家でもあったため、米の生産費調査を比較のため用い考察する。

結果：「繭生産費」調査では、調査票が性区分をもつ場合、その合計とともに、他の農業統計と異なって、特に女性だけを取り出した値が記されている。養蚕の作業別区分は、「栽桑」と「養蚕」に二分されるが、男女共に両労働に従事し、総労働時間は女性の方が長い。作業区分で見ると「栽桑」では男性が、「養蚕」では女性が長い。蚕は環境に左右されやすく、育てるには技術が必要であるので、女性が養蚕作業で重要な蚕の飼育を担うことは、女性の養蚕主導者としての性格を示している。「繭生産費」調査の形式は、養蚕労働に占めるこうした女性の立場を反映している。一方、「米及び麦類の生産費」の米の作業別労働時間には性別の表記はなく、作業全体の投下労働時間にはのみ男女の区分が併記されている。米の生産のための総労働時間は女性の方が短い。つまり繭の生産費調査では、米のそれとは異なり、養蚕と女性の関わりが明確に反映される結果になっている。養蚕の女性労働が、統計により目に見える形で表わされることで、養蚕と女性の結びつきの、より具体的な実態が示された。